

「高齢者の働く想い」

～射水市の高齢者のインタビューより～

指導教員：北山 由起子

担当学生：酒井 美夢、櫻井 恵、庄司 光汰、スマットウー、杉浦 幸、杉本 涼

I 【理由・活動の目的】

日本では高齢化が進行しており、社会問題になっている。2020年では全国28.9%、富山32.8%とこの現状はさらに深刻な状況になることは間違いない。5年後には第一次ベビーブームの時に生まれた団塊の世代が後期高齢者（75歳）になり、医療や介護などの社会保障費が急増する2025年問題に直面する。国民の4人に1人が75歳以上にあると言われていて日本では高齢者のサポートが必要である。

富山県と射水市の高齢化率と雇用率を事前に調べてみて今日、高齢者の中にはさまざまな理由（能力を生かしたい、社会に貢献したい、暇つぶし、健康のためなど）で定年してからも働いている方が多いことが分かった。ここで、高齢者が定年退職後も働ける場所にはどのようなところがあるのか、現在働いている高齢者の現状はどのようなものなのか疑問に思った。

そこで今回私たちは、深刻な問題である高齢化社会の中で富山福祉短期大学がある射水市の「働くこと」に着目した。その理由は、「働くこと」についての現状や課題、高齢者の方が抱えている思いや希望を知ることによって新しい発見が見つかり、何か出来るのではないかと考えたからである。

以上のことから私たちの活動では、射水市の高齢者を対象にインタビューを行い高齢者の働きやすい方法を考えることを目的とする。

II 【調査方法】

1. 地域特性の把握

1) 富山福祉短期大学がある射水市の人口と高齢化率

日本 人口：1億2588万人 高齢化率：28.7%

富山県 人口：104万5000人 高齢化率：26.6%

射水市 人口：9.345万人 高齢化率：28.8%

2) シルバー人材センターについて

シルバー人材センターとは高齢者が自主的に働くことを通じて生きがいを得ると共に、仲間づくりや地域社会の活性化に貢献する組織である。

2. 射水市三ヶ地区の高齢者へのインタビュー

1) 対象者

シルバー人材センター職員 2名

射水市三ヶ地区に住む 65歳以上の高齢者 7名

シルバー人材センター会員 3名、三ヶコミュニティーセンター 4名

・半構造化面接アンケートを作成し、高齢者にインタビューを行った。

高齢者に対しての仕事への関心

2. 調査内容

①シルバー人材センターへのインタビュー

1. 今現在、どのくらいの人が働いておられますか？
2. 年代別の登録人数はどのくらいですか？
3. 男女比別の登録人数はどのくらいですか？
4. 1番若い人の年齢は何歳ですか？
5. 反対に最高年齢は何歳ですか？
6. 新規の会員は一年にどのくらいおられますか？
7. 登録人数を増やすために何かされていることはありますか？
8. どんな種類の仕事がありますか？
9. 人気の職業は何ですか？
10. 多い人で月に何回働いていますか？
11. どのくらいの収入がありますか？
12. 障害者の方向けの職業はありますか？
13. 体の不自由な方には、どんな職業を提案されていますか？
14. 以前にどんな仕事をしていた方がおられますか？
15. その仕事に就くにあたって新たに資格を取られた方はおられますか？（何名）
16. その資格はどんな資格ですか？

②地域の高齢者、シルバー人材センター会員へのインタビュー

1. 体の調子で気になるところはありますか？
2. 今、現在働いていますか？
3. 何の職業をされていますか？
4. その職業をされている理由をまたはきっかけは何ですか？
5. 勤務日数はどのくらいですか？
6. 仕事以外の日は何をされていますか？
7. 今の職業に満足していますか？
8. 今、働きたいと思っていますか？

Ⅲ【結果】

シルバー人材センターでは、利用されている方 3 名に話を聞いたところ、登録者の中で 75～79 歳の方が 233 名と多かった。仕事の種類はさまざまに地域の体育館事務、剪定、草刈りなど様々な働き口がある。それぞれの生活スタイルに合わせて職業を選んでおられる。現在最高齢男性 89 歳女性 88 歳の方がシルバー人材センターに登録し自分に合った職業に就いている。また、平均月に 10～15 日、多くて 20 日間。自身の健康や生きがい、ぼけ防止のために働いている。以前の職業から別の職業に就く方や、資格を活かして仕事を続ける方もおられた。自分の人生で働けなくなる時まで元気に能力を活かして働きたいと思っている方が多い。

三ヶコミュニティセンターでは、利用者 4 名に話を聞いた。4 名とも体が弱っているわけではなく、一日中家にいて、動かない時間が増えてしまうから、自身の健康やぼけ防止を目的に、何か仕事に就こうと考え、知り合いに紹介してもらった仕事に就いた。しかし、一定の年齢を超えたり、次の世代の人が入ってきたりしたことでその仕事は退職した。自分たちより年代が若い人たちの活躍により、高齢者の仕事がだんだん消えていった。また、自分たちの就きたい職業を自由に選ぶことができない。しかし、地域に少しでも貢献しようと考えコミュニティセンターを通して、ボランティア活動を行っている。また、地域から若者たちが他の地域に移り住むことでその地域は高齢者が増え、高齢化の原因となる。また、話を聞いていく中で、子供が成長し地元から離れていくことへの寂しさから次世代の私たちに対策を考えてほしいという心内を聞きこれからの高齢化社会の課題の一つとして考えていかなければならないと思った。三ヶ地区の若者たちが出ていってしまい、核家族が増え、1 人暮らしや高齢化の原因となることが問題視されているとわかった。

また、富山福祉短期大学の清掃スタッフ、2 名の方は知り合いから今の仕事を紹介してもらっており、自身の健康、ぼけ防止を目的に仕事をしている。また、学校で清掃をすることで学生の活気で自分たちも元気がもらえとおっしゃっていた。

Ⅳ【考察】

今回、シルバー人材センター、三ヶコミュニティセンター、富山福祉短期大学の清掃スタッフと合計 9 名の方に話を聞き、共通して、自身の健康、ぼけ防止を目的に働いていることがわかった。以前の職業とはまた別の職業であったり、自分の持っている資格を活かしたりと職種はそれぞれ違っていた。仕事をしていても、一定の年齢を超えれば退職という形になる。退職すれば、家にいる時間が増え、同時に動かない時間が増える。しかし、自身の健康、ぼけ防止、人生で働けなくなるまで元気に働きたい、地域に貢献したいという理由から働く高齢者が多いことがわかった。自分の好きな職に就き、交友関係の輪が広がっていく。定年は人生の転機であり、退職後も生きがいを持って地域の活動に参加したり、仕事を行ったりと人生を楽しく過ごしているのだと思った。

V【まとめ】

今回の射水市高齢者への調査活動から、射水市の働く高齢者は、世代交代や定年を理由に仕事を辞めている。しかし、定年後、生活ができるか不安で「働かんなん」という想いで働く高齢者は活動している。中には、生活のためや世の中を支えていくためだけの理由ではなく、自身の健康のために働いている人が多いことがわかった。しかし、自分の働きたい職業を選んでいくと選択肢が無くなり、職種も減ってしまう。これが高齢者の想いだ。その想いを叶えるものの一つとして、シルバー人材センターである。射水市のシルバー人材センターは働き口として体制が整っていて、気軽に仕事を見つけられる場所であると調査することができた。高齢者にとって、身の回りにそういった場所があることは良い事であると思った。もし、仕事を見つけたい人がいたら、シルバー人材センターのような働き口があることをもっと地域に発信していくべきである。

就業率を高めるために、私たちが考えるのはポスター作成だ。シルバー人材センターについての説明をまとめポスターを作成し、三ヶコミュニティセンター、スーパーマーケット、病院に貼っていただく。高齢者が頻繁に利用する場にポスターを貼ることで、一人でも多くの高齢者がシルバー人材センターを知るきっかけになる。また、交友関係が広がり、日々の生活が楽しくなることが期待される。